■本書内容紹介

　インドの叙事詩「マハーバーラタ」を題材とした、現代転生ものの児童むけファンタジー小説。

【英雄の生まれ変わりは、12歳の女の子】

　アル・シャーは、クラスメイトに馴染みたくて、つい法螺を吹いてしまう癖のある、12歳の女の子。考古学者にして博物館長、シングルマザーの母は忙しく、アルは寂しさのあまり、人の気を惹きたくて、法螺を吹いてしまうのだ。
　博物館にある、恐ろしい呪いのランプ。クラスメイトに呪いの実在を疑われて、囃し立てられたアルは、つい勢いでランプに灯を点してしまう。だがその途端、ランプに封じられていた悪魔「眠れる者」が、縛めを解かれ、世界の時空が凍り付いてしまう。アルは、愛する母を凍り付いた時空から救うため、試練を乗り越えて眠れる者に立ち向かう。
　マハーバーラタの主人公たるパーンダヴァ五王子。「眠れる者」が封印を解かれる度、彼らの化身が危機を止めてきた……アルが今世における化身の一人なのだ。パーンダヴァ五王子の生まれ変わりが、「眠れる者」のもたらす破滅を止めなければならない。――だが、スパイダーマンのパジャマを着た女の子に、そんな大いなる使命を果たすことができるのだろうか？

参考:
https://roshanichokshi.com/books/aru-shah-and-the-end-of-time/

　現在刊行中のフレッシュな続き物で、2018年から第1巻、2019年から第2巻が好評発売中。2020年に第3巻の予定。

■この本を出したい理由

【異国の神話であっても、「相容れないもの」より「相通じるもの」のほうが、多く秘められている】

　本書は、ディズニーから刊行されているレーベル『リック・ライアダン・プレゼンツ』の一角。
　「あまり表舞台に現れていない文化背景を持つ、中堅作家たちの作品を出版して、作家たちが受け継いだ神話・伝説に象徴される特別な物語を、世に伝えること」をテーマとしている作品群のひとつです。

参考:
http://rickriordan.com/rick-riordan-presents/

　舞台は現代アメリカ、現実世界と神話世界が入り交じる、いわゆる「ロー・ファンタジー」、馴染みやすい冒険ものです。

　主人公の「アル」は、映画好きで皮肉っぽい冗談が得意な、ウィットのある女の子。彼女と試練に立ち向かう仲間は、潔癖症な優等生の「ミニ」、そして悪魔のように口喧しいハトのサイドキックこと「ブー」。
　インド神話から逸話を引用して、ふんだんに物語に織り込みながら、同時に飛び交うのは、英雄らしからぬキャラクター同士のコミカルな漫才、映画ネタのジョークやパロディ。

　全体的なトーンは、陽気で可愛らしいものですが――満たされない愛、家族の別離、異文化と疎外感――普遍的な苦しみの壁を、丁寧かつ自然に取り扱っています。

　同一の人物が、善と悪の間を揺れ動く、二律背反な苦悩と試練。主要人物のほとんどが、家族の問題、苦悩と宿命を抱えています。
　それは題材「マハーバーラタ」自体のもつ魅力と特色でもあり、主人公たちの生命を吹き込まれた個性と人生でもあり、現代の世界にありふれた普遍的なテーマでもあります。

　異国の神話、はるか古代の叙事詩が題材なんて、馴染みづらいでしょうか？親しみを持って読むことができないと思うでしょうか？
　遠い国、遠い昔、異なる文化からやってきた物語であっても、「相容れないもの」より「相通じるもの」のほうが、多く秘められている――きっと、本書はそんな経験を与えてくれるはずです。

■自己紹介

発起人: アル・シャー・シリーズ和訳化応援団一同

　「マハーバーラタ」などのインド神話ファンを中心に、本書を応援して集まって下さった協力者一同。
　以下Twitterアカウントで、本作の情報を発信していきます！

Twitter:
https://twitter.com/PandavaSisters